



キリスト福音教会 恵風聖会 華津アマカホール 2023年2月23日

献身の証し



雲井キリスト福音教会 森田千鶴子

私が初めてイエス・キリストの話を聞いたのは、西宮の関西聖書学院（KBI）で行われたJECの高校生キャンプに、友だちに誘われて、参加した時です。

それまで一度も聞いたことがない罪についての話で、殺人とか強盗とか警察に捕まることが罪と思っていた私に、罪とは犯した個々のものより、自分ではどうしようもない心の内にある罪を犯してしまう力だということでした。自分自身は表面上は良い子でいても、心では人を批判している裏表のある人間だということが分かりました。それで悔い改めて、イエスキリストを信じました。とても心が軽くなりました。クリスチャーの高校生たちは、とても明るく喜びと自信にあふれて見え、私もこのようになりたいと思いました。

帰ってから友だちの行っていた岐阜純福音教会へ毎週通うようになり、高校卒業時には友だちと証集を作り、ギデオンの聖書と共に、母校で配りました。卒業後は賛美チームを作って、看護学校の学園祭に参加し

たり、ユースキャンプや伝道集会で奉仕もさせていただきました。その後それぞれ職場が離れ賛美チームとしては奉仕出来なくなりました。

そんな時、KBIのフレッド・スンベリ師が教会に来られ、説教の後に献身の招きをされたのです。周りの素晴らしい先生方や兄弟姉妹を見ていて、自分にはそんな能力はないと思っていたのですが、神様はマタイ12章18節を与えて下さり、こんな私を選んで下さり、愛してください。私が出るときは「そんなことをさせるために、お前を育ててきた覚えはない」と泣きながら怒っていました。

そして3年間KBIに学び、母教会で2年間伝道師として奉仕した後、結婚して現在の雲井キリスト福音教会に移り、伝道師として夫と共に働きながら伝道牧会してきました。今は二人とも退職して、教会に仕えています。私も4月から牧師に任命され、心新たに主と教会に仕えていきたいと思っています。ハレルヤ!!

パキスタン宣教報告 太田ともえ

「みなさんがサポートして下さったおかげで、今では多くの人々が再び自分の家を持つことができました。洪水前よりも人々の心は神様に向かって開かれています。みなさんの上に神様の豊かな祝福がありますように。」

これは、地域教会のリーダーである、ケベル兄弟の言葉です。

昨年、未曾有の洪水がパキスタンを襲いました。私たちはみなさんからの援助をいただいて、メディカルキャンプ、約 700 家族への食糧配付（小麦粉、米、油、豆）、105 家族へ住宅建築のためのレンガ配付を行いました。

私たちの方法は、まず地域教会のリーダーとともに食糧配付をしつつ、被害状況をリサーチ。完全に壊れた家々にフォーカスして、ファミリールームを一つ建てる分のレンガを配付する、というものです。壁塗りや屋根に関しては、非常に困窮している家族に限り、自分たちで部屋のレンガを積み上げたことを確認した後に配付しました。

実のところ、私たちの目的は、具体的な物の配付だけではありません。この機会を用いて、「人々が神様に心を開くきっかけとなりますように」と祈ってきました。そして、神様は、その祈りに答えて下さっています。

この、夫を亡くした女性の家が完成した時、私たちの心は喜び踊りました。なぜなら、洪水直後に、すべてを無くして希望を失っていた彼女と出会っていたからです。彼女のように神様から遠く離れていた人々が、主の弟子たちと共に同じ目的のために労する機会が与えられています。彼らの心の目が開かれて、私たちの救い主とお出会できますように、お祈り下さい。

また一方、洪水援助をする中で、「この家は洪水で壊れたのだろうか？ それとも貧困のために、洪水以前からこれに近い状態だったのだろうか？」というケースにも直面しました。将来的には、貧困にあえぐ人たちが現金収入を得られるプロジェクトも考え始めています。神様が知恵と導きを与えて下さいますように、お祈り下さい。



夫をなくした女性の家が完成

～TPKF 三役の提言～

「聖霊の風」

副委員長 山本義武



「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」（使徒の働き 1 章 8 節）

マスク着用の緩和や 5 類感染症への変更などで、今後、交わりや愛餐会などが増えていくと思います。今まで TPKF 諸教会の礼拝が守られ、オンライン等によって交流ができたことに改めて感謝しています。福井自由キリスト教会では、配信や音響の充実化から奉仕の機会が生じ、教会に集うことが困難な方にはオンライン配信が有効活用されてきました。かつての交わりの喜びをもう一度と願いつつ、さらなるチャレンジへの必要性も感じています。

その中で最近、思わされていることがあります。一つは、「リバイバルは人間の常識、思いを突き破る」とい

うことばで、3月に福井に来られた在原繁先生が話されたことです。もう一つは、今年2月に起こったアメリカのアズベリー大学のリバイバルです。始まりは一人の悔い改めの告白だと聞いています。講堂では4月になってもノンストップで礼拝がなされ、悔い改めと献身が起こっています。「最新の方法を用いて特別なことをした」とか「コロナの影響で何もできない」などではなく、神が介入される時、聖霊が働かれる時に、素晴らしいことが起こることを再度、思わされています。

「天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」（イザヤ書 55 章 9 節）

今の時代にも、私たちの思いをはるかに超えた神の大きな計画がなされようとして期待してやみません。このペンテコステの時、祈り、信仰を守り、継承し、福音を宣べ伝えながら、そこに働かれる私たちの思いをはるかに超えた「聖霊の風」を見ていきたいと願います。そして、TPKF に、日本中に、リバイバルの風が起こされていくことを祈り求めていきたいのです。

信仰継承 ～子育て奮闘記～

町田純福音教会

小川佐和子

「子育て奮闘記」という原稿依頼をいただきました。前回の主人同様、私も失敗ばかりの、そして現在でも失敗を繰り返しながらの子育て奮闘中でありながら、このような依頼を引き受けてよいものかと思いました。でも、全てを働かせて益としてくださる神様の恵みを証しできたらと思い、ペンを執らせていただくことにしました。



長女がまだ小学生だった頃の写真

私と主人は、3人の子供に恵まれました。前回の記事の中で、主人は長男との関係について書いておりましたが、私は長女のことについて話をしたいと思います。長女が小学校5年生の時に、突然、身体の不調を覚え、学校に行けない日が増えてしまいました。学校が嫌いなわけでもなく、学校に行きたいのに、身体が言うことをきかない、立ち上がることができない。結局そのまま、小学校を卒業し、中学校に入ってもその症状が続きました。私達夫婦は親として、どうすることもできず、本当に無力でした。そんな時、主人が父と共同経営していた会社をたたんで、牧師になるためにアメリカの神学校に行く決心をしたのです。「環境が変わることで、娘の体調によい影響があらわれてくれたら」という願いで、私達は家族全員でアメリカのダラスにある神学校のアパートでの新生活をスタートさせました。ところが、言葉の違い、文化の違い、環境の違いに娘はまったく付いて行けず、体調はますます悪くなってしまい、起き上がれない日々が続きました。娘が体調を崩して以来、一生懸命に祈ってきました。病院を転々とし、いろいろなことを調べ、これはいいと思うことは全て試してきました。だけど症状は悪くなる一方のように見えました。「イエス様、なぜですか？」その問いを何度繰り返したかわかりません。そんな時、主人から、「いい話があるぞ！」というので、「何か娘によいサプリでも見つけてくれたのかな！」と思ったら、「明日の朝から詩篇の145篇から150篇を一緒に朗読して、毎朝、神様を礼拝してから一日をスタートさせよう！明日から5時半起きでよろしく！」ということでした。私の都合も聞かず、教授にすすめられたという理由だけで。それから毎朝、二人で早起きして、詩篇を朗読し、共に神を礼拝する日々が帰国する時まで続きました。でも娘は癒されませんでした。「日本に帰っても何も変わらないのかもしれない。」そんな恐れが私の心にありました。ところが変わったのです。変わったのは娘の身体ではなく、娘

の心でした。日本にいた時には、当たり前だと思っていたことが、アメリカ生活の苦しみの中で、当たり前でないことがわかったのです。言葉が通じること。自分で好きな時に好きな所に自転車で、あるいは電車で自由に行けること。自分の口に合うものがいつも食べられること。「それは、当たり前ではなくて、神様からの恵みだったのだ！」そのことに気が付いた娘は、日常の些細なことにも感謝できるようになったのです。気持ちが前向きになっていき、日本の高校に転入してからは、サッカーと出会い、体力も徐々に戻っていきました。娘がアメリカの生活で学んだことは、「感謝の心」です。そして、私が学んだことは「たとえそうでなくても信仰」です。ダニエル書の中で、ダニエルの友人3人がバビロンの王の命令に聞き従わず、偶像礼拝をしなかった罰として、燃える火の炉に投げ込まれようとしている時、「私達が仕える神は、火の燃える炉から私達を救い出すことができます。」と3人は答えました。でもそのあと、「しかし、たとえそうでなくても、私達はあなたの神々には仕えず、金の像を拜むこともしません。」と王に向かって高らかに宣言したのです。神様は3人のその信仰に答えてくださいました。「癒してくださるなら信じる。癒されないなら信じられない。」それはただのご利益宗教に他なりません。「たとえそうでなくても！」私達の願いが聞かれなかったとしても、神様の最善がそこに必ずあると信じます。アメリカで娘が、そして私達夫婦が苦しみにあったことは、私達にとって幸せでした。それで、娘は感謝を覚え、私達夫婦は神の哀れみの深さを覚えました。娘は現在、小児科病院の看護師として働いています。夜勤が多く、ふらふらに疲れて帰ってくる姿を見る時、不安を感じる時もあります。でもなにがあっても「たとえそうでなくても信仰」を手放すことなく、イエス様をひたすら信頼して、神様を日々礼拝しつつ、これからも子育てに奮闘して行きたいと思います。



回復して20歳になった長女



2023年、桜の木の下にて親子で

あかし

希望はイエス様の中に

ホープハウス クレスエイエ・グン

春は自然の新しい営みが始けてくる季節です。日本の桜を見て、あらゆる色に咲くチューリップを見て、驚かない人はいないでしょう。ツバキ、アジサイ、バラ、ツツジ……。素晴らしい自然の花のリストはとどまるところがありません。日本は神様によってなんと豪華な景色が与えられ祝福されています。神様は私たちが堪能するためにそれらを創造されたと思えます。偶然が重なって進化して出来上がったと考える人が今もなおられるということは、理解しがたいことです。



ダビデ王は詩篇8篇で『人とは、何者なのでしょう』と問いかけていますが、私たちはその答えを知っています。神のひとり子イエス様が人のために命を捨てるほどにこの世を愛された、ということです。イースターのイエス様の復活の話や、クリスマスのイエス様の降誕の話は、イエス様が私たち人間の生き方のお手本となるために来てくださったことを考えるのに良いものです。神様が私たちのことをどれほど考えてくださっているか、ということをおもいます。

この世のニュースは戦争と破壊について知らせます。それらは、悲観的にみればいつでも起こってしまうものです。その反対に希望があります。『この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。』（ローマ 5:5）神の愛には希望がともないます。そして、この希望はいつまでも続きます。イエス・キリストがすべてを『完了した』と言った時、彼はそのすべてを達成したといえます。だからこそ私たちは、イエス様とともに明るい未来を見ることができるといえます。すべての私の希望はイエス様の中にあります。

「もっと」ではなく「もうすでに」

雲井キリスト福音教会 山崎紫音

人前に立つだけで声が震え涙を流していたような者が、恐れ多くもみことばを語る者とされたことは、主の恵みとあわれみに他なりません。福音には人の人生を変える力があります。

以前の私は、人と比べることにより自分の価値を測っていました。頑張ったら人から認められる、自分の努力次第でなんだってできると思い、自分の夢を叶えるために一直線でした。

しかし仕事の挫折を通して頑張ることのできない自分に直面しました。怖がりでも踏み出せない、何もできない自分に絶望しました。そして「こんな自分、これから何をしてもあかん」と心でつぶやきました。



しかしそんな真っ暗な中、神様の声が聞こえたような気がしました。「人がどう見るかではなく、わたし（神様）がどう見るかだ。」と。その時に私は、神様が私のことをそのまま愛してくれていることに気づかされました。そして自分がどれほど神様の愛から離れた中で生きてきたかに気づかされ、心から悔い改めました。そして私は神様に愛されている喜びで心が満たされました。またそれと同時に、「もう、このお方のために生きたい」と思われました。祈る中で1年後、KBIへの入学に導かれました。

KBIで一番学んだことは、イエス様の十字架により「義」とされている立場が与えられていることです。その十字架の愛に何度も立ち返らされています。そして暗闇の中で確かに私に語りかけてくれた、光をもたらしてくれたあの救いの喜びが支えとなっていました。

もっと、もっとと自分で頑張るのではなく、もうすでに十分注がれている神様の愛に生かされていることに気づかせてくれた神様に感謝します。

■ チャレンジキャンプ

〈イースト〉



3月27日（月）から一泊二日でユース対象のチャレンジキャンプが三浦YMCA グローバルエコビレッジにて開催されました。タイトルは「ラブレボリューション'23」。テーマは愛！今年こそ！と決断し臨んだ久しぶりの宿泊型キャンプは、スタッフを含め全体的に参加者の顔ぶれが新たになりました。スタッフは、「神様の本当の愛を更に深く知ってもらいたい」と準備しました。講師の佐藤創師（湘南グレイスチャペル）が語られた「愛の通る3つの駅」、「僕たちは主人公」という2種類のメッセージから、「神様から全世界に向けて出発した愛は自分の心を通っていく。自分の心を通り過ぎてはいけない。」ということ、クリスチャンホーム出身の先生の証しからも深く学ぶことができました。神様の愛を思う2日間、お互いを想う2日間、ユースの祈り合う姿に感動しました。お祈り下さり、信頼して送り出して下さいましたことに心から感謝しました。（石井すみれ）

■ 勝山自由キリスト教会の近況

〈FCMF〉

無牧の教会ですが、長老を中心に教会員全員で祈りながら日々の歩みを進めています。数年前から当教会に重荷を持ってくださった八尾南福音教会の福島敏雄牧師が月1回来てくださっています。

そんな中、K B Iの大田師より連絡があり、箕面福音教会を退任された保野（やすの）あかね牧師が三ヶ月間来てくださる事になりました。今まで行き届かなかった一人ひとりと



の関わりを持ってくださり、新しい風を吹き込んでくださいました。今までの集会以外に賛美グループを作ってください、先日発表会がありました。しばらく教会から離れていた方や求道中の方々が集まり賛美の素晴らしさを味わいました。

保野牧師は三月いっぱい新しい赴任先に行かれましたが、私たちは後戻りをするのではなく、新しい一歩を踏み出したいと願っています。（伊藤緑）

■ 恵風聖会に参加して

〈キリスト福音〉

「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

（ヘブル 10 章 25 節）

予想を超える 160 名以上の兄弟が、アルゼンチン宣教師在原繁師の説教に静かに耳を傾けている会場で、神様のご臨在を強く感じました。

現在地上には底知れない不安や恐れが嵐が吹き荒れている中、地下にある神様からの命の川は、涸れることも濁ることもなく、豊かに流れ続けていることを教えられました。

アルゼンチンと日本宣教に全生涯を献げ尽くしておられるご夫妻に接して、言葉では表現できない苦労があるはずなのに、なぜか優しさと爽やかさだけが心に残りました。体には満身創痍がありながらも、苦労の片鱗も感じせない、奥様の笑顔の証に感動の涙が滲みました。日本のリバイバルは近いと確信しています。（村岡清彦）

■ K B I

私たちの考えを越えて神様は事をなさると思います。去る 3 月 9 日（木）、K B I では 2022 年度卒業式が持たれ 14 名の卒業生が派遣されていきました。振り返ると、彼らが入学した 2020 年は新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた年でした。3 週間コースは中止、入学式は 1 か月延期、そして新入生はオンラインで式に出席しました。「こんな状況ではこれから神学生が集まるのは難しいでしょう。ましてや寮生活では。」と誰かが言いました。

しかし、蓋を開けると不思議に編入生も加えられていき、彼らは K B I 史上 2 番目に人数の多い卒業生となりました。様々な制限の中、クリエイティブに、喜んで伝道に出て行く素晴らしい学年でした。献身者の減少を言われる昨今ですが、収穫のために主が続けて K B I に「人」を送ってくださるようお願いいたします。

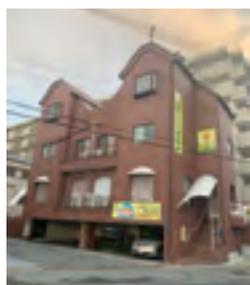
（関西聖書学院 高橋めぐみ）

教会紹介

ブンキョウゴスペルセンター

所在地：福井県福井市田原 2-25-22

ブンキョウゴスペルセンターは、ノルウェーの宣教師によって福井市で設立されました。また、「The Lighthouse 749」という支部も三国町にあります。指導者やミニストリーは何度か変遷してきました。パンデミック後、教会生活も通常状態に戻りつつあります。イエス様が再び来られるのを楽しみにしており、それに備え、また多くの方々もそれに備えられるようお手伝いしたいと考えています。また、次世代の信徒をリーダーや奉仕者として育てる方法を検討しています。（ダン・クック）



大阪キリスト福音教会

所在地：大阪府寝屋川市豊里町 48-1

大阪キリスト福音教会は、1958年にフィンランドのヒルカ・トゥオミネン宣教師によって、開拓されました。1996年に今泉孝之師が牧師として、2020年には今泉美恵子師と今田雄司師が副牧師として着任しました。2008年に新会堂が与えられ、昨年には隣の土地に駐車場も備えられました。メンバーが神の祝福を受ける人生へと変えられていくことを目指し、またその家族や親族や友人の救いを祈り求め、伝道活動を行っています。（今泉孝之）

教会情報

【訃報】

○磯子フィラデルフィア教会

2023年2月12日 米川繁子元伝道師召天（85才）

○小浜キリスト福音教会

2023年2月22日 大宅昭子元伝道師召天

●就任

○雲井キリスト福音教会

3月9日 山崎紫音姉 関西聖書学院卒業 雲井キリスト福音教会奉仕 4月2日 森田千鶴子牧師就任

○FCMF 新議長：小山大三師 KBI新理事：菅原純次師

○ちから誌 新編集長：宮崎一実師 新編集委員：札幌緑師

●聖会

○FCMF 「春の1日聖会」5月3日(水) 11時～「回復の年」ヨエル書2章25～27節 講師：置田信也師 場所：福井自由キリスト教会

○キリスト福音教会 「秋季聖会」9月23日(土)

講師：山本義武師 場所：野洲さざなみホール

■2023年TPKF大会のご案内

日時：6月5日(月) 10時～15時 「シン・TPKF」
テーマ：「見よ。わたしは新しいことを行おう」(イザヤ43:18～21) 講師：芳三容子師、山本義武師、上田勇矢師

○日本ペンテコステ協議会JPC拡大研修会(対面)

「これからの日本宣教について」講師：石田敏則師 JEA理事
日時：6月2日(金) 11時～15時 会費：3000円
場所：アッセンブリー教団本部チャペル

書籍紹介

「神の大使」— 聖霊の人 —

金夏中(キム・ハジュン) 著 ツラノ書院 1600円+税

キム・ハジュン氏は駐中国大使として6年半韓国政府の要職にあった。神の国と神の義を第一とし、あらゆる領域に父なる神様の権威とご支配を深く信頼し、祈る大使として用いられた。それは、彼が洗礼を受けた時に聖霊のパプテスを経験したことから始まる。彼のために妻が執りなして祈り、教会が彼のために熱い祈りを捧げ、不思議な聖霊様の取り扱いを受け、彼もまた執りなし手として用いられていく。祈りたい、と心が動かされる書物である。（中見透）



単立ペンテコステ教会諸教会(名簿順)

北広島自由キリスト教会 / 平川めぐみ教会 / 房総中央キリスト教会 / 大佐和キリスト教会 / 町田純福音教会 / 鶴見純福音教会
横浜フィラデルフィア教会 / 磯子フィラデルフィア教会 / 金沢フィラデルフィア教会 / 横須賀クリスチャンセンター
保土ヶ谷純福音教会神の愛チャペル / 大和あがないの丘キリスト教会 / 戸塚カルバリ純福音教会 / 栄シャローム福音教会 / 伊勢原聖書キリスト教会
秦野クリスチャンセンター / 北アルプスグローバルチャーチ白馬キリスト福音教会 / 南アルプスグローバルチャーチ小笠原純福音教会
甲府カルバリ純福音教会 / ハーベスト・チャーチ山梨 / 裾野純福音キリスト教会 / 御殿場純福音キリスト教会 / 富士純福音キリスト教会グレイスチャーチ
いのちのパンの家 / 小松ベタニヤ福音教会 / ホープハウス / 福井自由キリスト教会 / ブンキョウゴスペルセンター
松岡福音教会 / 丸岡福音キリスト教会 / 勝山自由キリスト教会 / The Lighthouse 749 (三国) / 武生自由キリスト教会
グローリーチャーチ敦賀自由キリスト教会 / 金津福音キリスト教会 / 小浜キリスト福音教会 / 小浜キリスト福音教会三方伝道所 / 高富グレイスチャペル
岐阜純福音教会 / 岐阜純福音白鳥教会 / 岐阜ライフチャーチ / 美濃グレイスチャーチ / 本地ヶ原自由キリスト教会
瀬戸サレム教会 / 大阪キリスト福音教会名古屋伝道所 / 滋賀キリスト福音教会 / 守山キリスト福音教会 / 大津韓国福音教会 / 大津キリスト福音教会
田上キリスト教会(大津キリスト福音教会伝道所) / 甲賀キリスト福音教会 / 水口キリスト福音教会 / 甲西キリスト福音教会
雲井キリスト福音教会 / 米原キリスト福音教会 / 綾部キリスト福音教会 / 亀岡ベタニヤ教会 / 京都キリスト福音教会
山科キリスト福音教会 / 深草キリスト福音教会 / 宇治キリストペンテコステ教会 / 木幡キリスト福音教会 / 大阪キリスト福音教会
須磨自由キリスト教会 / 神戸フィラデルフィア教会 / 南さつまキリスト福音教会

以上の教会に1部以上を送っています。私たちの願いはすべてのTPKFの信徒が1部ずつ持つことです。

ご意見、ご感想は次のメールアドレスをお願いします。pentecost@tpkf.org

TPKFの公式ホームページ <https://tpkf.org/>

